



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

サッカークラブ社長として、観光庁長官として、
地域活性化に努めてきた。

溝畑 宏 (みぞはた ひろし)

内閣官房参与・大阪府特別顧問・京都府参与・京都大学経営大学院特命教授



○ 登録者情報

所在地

東京都千代田区

略歴

昭和60年3月東大法学部卒業。同年4月自治省(現総務省)に入省。平成2年に大分県に出向し、企画総室文化振興室長、総務部財政課長、企画部次長などを歴任して2002年サッカーW杯の誘致や大分トリニータの立ち上げ、立命館アジア太平洋大学(別府市)設立に携わる。平成11年5月に自治省勤務となるが、平成12年4月に再び大分県に出向。平成16年8月に大分トリニータを運営する大分フットボールクラブの社長に就任。平成18年に総務省を退職し、社長業に専念。平成21年12月に同社長を辞任し、平成22年1月から平成23年3月まで観光庁長官。同年5月に内閣官房参与、大阪府特別顧問、京都府参与に就任。

【受賞】

平成14年9月2002年ワールドカップ日韓開催功労賞(韓国サッカー協会より)、平成22年11月ベストドレッサー賞、平成24年1月経済界大賞

著書・論文等

(著書)

「溝畑流・日本列島観光論 逆転こそNIPPON!」(講談社)

(評伝)

「社長・溝畑宏の天国と地獄」(木村元彦著・集英社)

○ サッカークラブ社長として、観光庁長官として、地域活性化に努めてきた。

取組の内容

(サッカークラブ社長として)

大分県庁出向時に、2002 FIFAワールドカップの試合誘致、大分トリニータの立ち上げを行い、株式会社大分フットボールクラブ代表取締役兼ゼネラルマネージャーとしてチームをJ1昇格、Jリーグカップ優勝まで導いた。

(観光庁長官として)

地域活性化に資する観光立国の実現の為、現場主義、昼夜休日問わず、日本全国を駆け回り、何千、何万という方々と交流し、議論し、種々の観光施策に反映させ、実施してきた。また、震災後は、国内旅行需要の喚起、インバウンドの回復を念頭に、現場主義を徹底させ、また、トップセールスを各国にも実施し、陣頭に立って、観光での震災復興を進めてきた。結果、国内旅行需要、インバウンドは一昨年と同水準まで順調に回復している。

実績

(サッカークラブ社長として)

最初は観客がたったの3人であった大分の地に、サッカークラブの文化を根付かせ、J1優勝時には3万人のファンが応援に駆け付けた。日本代表となる選手もその時代に育成した。

(観光庁長官として)

就任1年目にしてインバウンド過去最高値の861万人を達成。震災が起り、インバウンドも国内旅行需要も著しく減少したが、自粛の自粛、観光交流での被災地における経済活性化、安心安全の情報の正確な海外発信、海外へのトップセールス、国内外への感謝の気持ちの展開などにより、両者を1年で回復させた。

工夫した点や苦労した点

身の丈論、事なかれ主義など、アクションを起こすことにネガティブな集団をどう前に向かせるかに苦心した。成功のイメージを共有させ、更に優秀な者に、率先垂範、まず成功事例を作らせ、その他の者に安心感を与えるなどの取組を行ってきた。

ひとことPR

観光は日本復興の一つの大きな起爆剤になります。今あるものを生かすことで経済活性化、地方活性化、子供の教育にもつながる。もう一度日本が明るく元気な国になるため、様々な形で役に立ちたいと思っています。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
	5	定住促進	11	その他
○	6	観光振興・交流		

[戻る](#)